

令和5年度全国学力・学習状況調査結果について

清水中学校

全国的に、子どもたちの学力状況を把握するために、文部科学省は平成19年度から、小学6年と中学3年の全児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」を行っています。

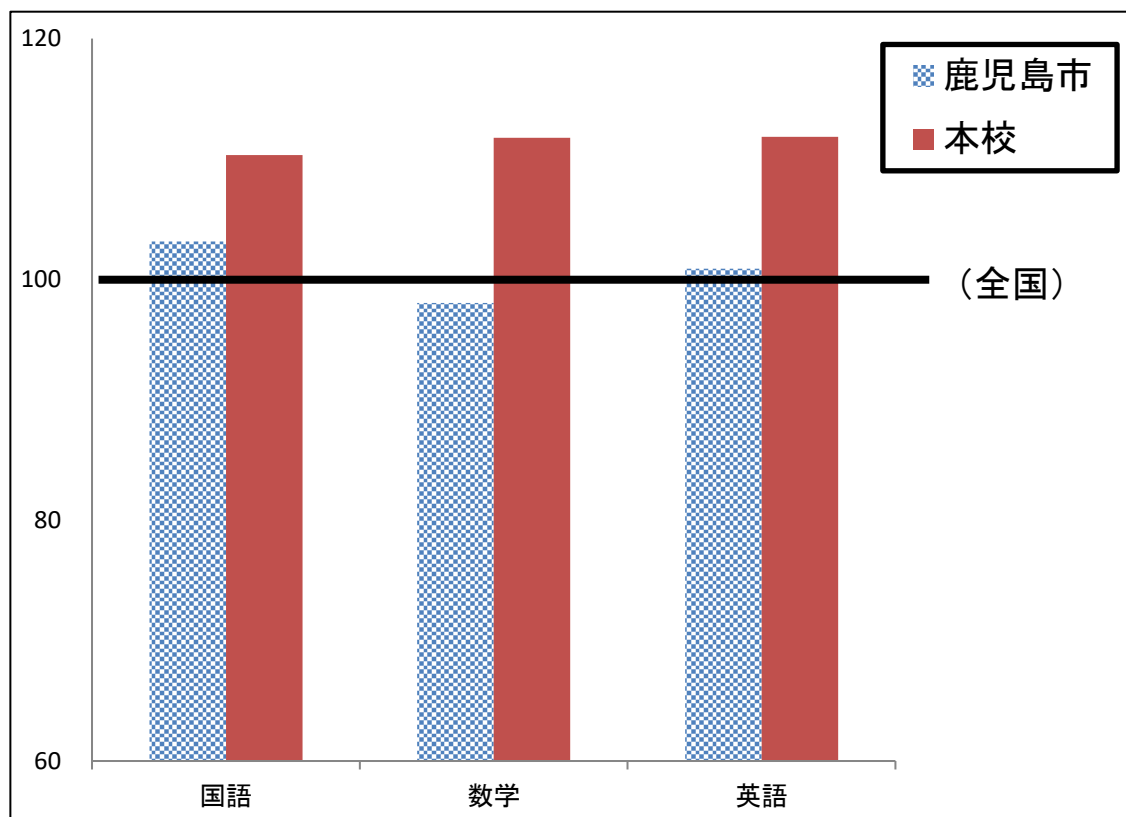
下のグラフは、今年度の結果です。

どの教科も全国平均を超え、これまでの取組の成果が見られるようです。

この結果を踏まえ、子どもたち一人一人に「生き抜く力」や「学び続けようとする意欲や態度」を育ていけるよう授業改善を進めていきたいと思えます。

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

【国語】

「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」ともに、どの区分も県と全国の正答率を上回っていますが、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることの正答率が低い傾向にあります。そのために、比較する観点を生徒自身が設定したり、シンキングツールを活用し、共通点や相違点を視覚的に示して整理したりする活動を取り入れていきます。また、新聞ワークシートを活用し、様々な分野の文章を読む活動を継続していきます。

【数学】

記述式への苦手意識を感じました。必要に応じてグループ学習を取り入れ、生徒が互いに議論し、考え方や求め方を工夫し合う場を設定していきます。また、定期テストに継続して類題を出題し、誤答訂正まで確実にに行わせることで定着を図ります。

【英語】

無回答率が2桁と高かった問題は、全て「書くこと」の領域であり、「書くこと」に対する課題があることがわかりました。単元別に基本文を定着させて、課題のテーマを想定しながら、単語や表現方法を整理します。生徒には身近なテーマから取り組ませ、既習単語や熟語・文法をどれだけ効果的に使えたかを自己評価させます。個々に応じて、発展的なテーマ設定へ移行させ、表現の幅を広げられるよう取り組んでいきます。

【全体的に】

生徒質問紙の結果からは、自宅学習時間が短い生徒が多い傾向にあり、家庭学習に対する意識を変えていくことでまだまだ向上するものと考えます。また、ICT機器が学習に役立つと考えている生徒が多く、今後は、タブレットの持ち帰り等も検討していきますので、御家庭でも見届けと助言をよろしくお願ひします。